

基本計画の検討フレーム等について

令和6年度 基本計画検討のながれ



全市的に整理が必要な論点、地域別の配置案の与件の検討・整理

【合意形成プロセス(仮)】

- ・検討体制
- ・検討に必要な材料
- ・WSのスキーム

モデル地域での検討へ

【論点】 ※詳細3ページ

- ・支援教育の方向性(拠点化等)
- ・小中一貫校、小規模特認校
- ・地域の防災機能

各論点を全市的に見せる

【与件】 ※詳細4ページ

- ・学びの規模
- ・検討地域割り
- ・学区と自治会区域の整合

検討の優先順位等整理

モデル地域での検討

- 論点・与件を反映させた学校配置案(2~3案)を持って、モデル地域(1地域)でWS等を数回実施

- 委員会の検討でまとめた合意形成プロセス(仮)に基づき進める

- 地域・学校が抱える課題の共有、意見交換

検討経過を委員会で共有の上、合意形成プロセスの検証・見直し

地域別の配置案の検討

- 与件に基づきまとめた地域別の配置案(1地域あたり2~3案)を提示

- 論点・与件と照らし合わせて全体の整合や課題等を確認

- モデル地域での検討結果も踏まえ、地域別の合意形成プロセスと検討材料(複合化・跡地利用など)について検討

○基本計画

- ・論点の方向性
- ・地域案の与件
- ・地域案(仮)
- ・合意形成プロセス

○整備指針

- ・順次、地域別の検討・合意形成に入る

整備指針(素案)の検討

論点の整理

論点	現状・課題／仮説
支援教育の方向性(拠点化等)	<ul style="list-style-type: none"> • 肢体、病弱は拠点校化、その他は全校で対応 • 通級指導教室の充実
小中一貫校	<ul style="list-style-type: none"> • 小中連携を強化しつつ、校地が隣接している小中のような導入しやすいところで導入？
小規模特認校	<ul style="list-style-type: none"> • 全市的ニーズの把握 → 制度の存廃等の可否
通学距離・遠くなる場合の代替手段	<ul style="list-style-type: none"> • スクールバスを手当する、しない • する場合の距離条件等
地域の防災機能	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の避難所数では避難者数を受け入れきれない → 学校跡地に避難所機能を残すか
地域に学校をどこまで開くか(複合化)／学校開放のあり方	<ul style="list-style-type: none"> • 現状: 体育館、校庭が主体→図書館？特別教室？ • 各地域の機能配置の現状も考慮する
「新しい学校」の運営体制	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員の負担軽減 → 地域利用の運営は？ • 整備手法も勘案した運営形態

与件の整理

観点	条件(判断指標)	主な内容
優先的に考慮すべき 事項	・学びの規模	・ 望ましい学校規模(学級数等)の確保
	・施設の老朽度	・ 経過年数、劣化状況、躯体の健全性
	・校地の災害リスク	・ 津波、洪水・土砂災害など
	・通学区域、学校配置	・ 小学校区と中学校区の不整合(分散進学の解消) ・ 通学距離・時間
	・学区と自治会区域の整合	
配置場所の選定	・既存の学校敷地内で検討	・ 新規用地取得は想定しない
	・校地の災害リスク	・ 津波、洪水・土砂災害など
	・通学距離・時間	・ 学区の端になるような配置は極力避ける
	・校地の面積	・ 国の基準による校庭面積が確保できる